

7 月 8 月の災害支援活動より 令和 2 年熊本南部豪雨災害に関して

令和 2 年 8 月 12 日

熊本県地域密着型サービス連絡会事務局

日本認知症グループホーム協会熊本県支部長

全国認知症介護指導者ネットワーク理事

日本ホスピス・在宅ケア研究会

高橋恵子

熊本県内地域密着型サービス事業所の被災状況の整理から

2020.7.4 10:00 地域密着型サービス連絡会事務局として、各ブロックのネットワークを駆使し、情報収集開始しました。特に、未明より豪雨が続く県南を中心に調査を行いました。当初、人的被害は確認されていませんでした。

その日、感染予防のこともあり、他県の支援は要請しませんでした。まずは情報収集に努め、特に県南の地域には念入りに連絡を続けました。

豪雨の状況と地域密着型サービスの被害状況

気象庁発表資料より

7 月 3 日から 7 月 31 日にかけて、日本付近に停滞した前線の影響で、暖かく湿った空気が継続して流れ込み、各地で大雨となり、人的被害や物的被害が発生した。気象庁は、顕著な災害をもたらしたこの一連の大雨について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和 2 年 7 月豪雨」と名称を定めた。

7 月 3 日から 8 日にかけて、梅雨前線が華中から九州付近を通して東日本にのびて ほとんど停滞した。前線の活動が非常に活発で、西日本や東日本で大雨となり、特に九州では 4 日から 7 日は記録的な大雨となった。また、岐阜県周辺では 6 日から激しい雨が断続的に降り、7 日から 8 日にかけて記録的な大雨となった。気象庁は、熊本県、鹿児島県、福岡県、佐賀県、長崎県、岐阜県、長野県の 7 県に大雨特別警報を発表し、最大級の警戒をよびかけた。

その後も前線は本州付近に停滞し、西日本から東北地方の広い範囲で雨の降る日が多くなった。特に 13 日から 14 日にかけては中国地方を中心に、27 日から 28 日にかけては東北地方を中心に大雨となった。

7月3日から7月31日までの総降水量は、長野県や高知県の多い所で2,000ミリを超えたところがあり、九州南部、九州北部地方、東海地方、及び、東北地方の多くの地点で、24、48、72時間降水量が観測史上1位の値を超えた。また、旬ごとの値として、7月上旬に全国のアメダス地点で観測した降水量の総和及び1時間降水量50mm以上の発生回数が、共に1982年以降で最多となった。

この大雨により、球磨川や筑後川、飛騨川、江の川、最上川といった大河川での氾濫が相次いだほか、土砂災害、低地の浸水等により、人的被害や物的被害が多く発生した。また、西日本から東日本の広い範囲で大気の状態が非常に不安定となり、埼玉県三郷市で竜巻が発生したほか、各地で突風による被害が発生した。

(被害に関する情報は令和2年8月4日内閣府とりまとめ等による)

活発な梅雨前線の影響で、九州を中心に大雨となっていて、気象庁は熊本県と鹿児島県に、大雨特別警報を発表した。十分な警戒と、命を守る最善の方法をとるように。気象庁・中本能久予報課長「熊本県と鹿児島県の市町村に『大雨特別警報』を発表した。命を守るために最善をつくさなければならない状況。普段災害が起きないと思われているような場所でも最大級の警戒が必要」と。熊本県を流れる球磨川は、氾濫が確認された様子。流域の一部では河川が氾濫し、2階建ての住宅が水没するなど被害が出はじめていた。気象庁によると、熊本県では活発な雨雲が連なる線状降水帯が発生し、芦北町田浦で午前6時半までの6時間に325.5mm、水俣市では午前8時すぎまでの12時間に414mmの雨が降った。
(FNN ニュース速報)

緊急に各ブロック世話人に地域の状況を確認、特に県南の事業所に聞き取り

八代地区世話人より、球磨川下流地域にちかいグループホームまどかが床上浸水。しあわせの里も崖地に近いが、大丈夫とのこと。坂本のひかりが、中九州短期大学体育館に避難中だった。5日、ひかりとまどかには支援物資を届けて情報を確認した。人的被害はないとのこと。(八代地区ブロックに今後のサポートを依頼した)

芦北・水俣地区世話人より、4日午前中では、今のところ施設自体は大丈夫ではないかとのことだったが、当時は、電話は不通が多かった。

一部河川の近くで氾濫が起き、家屋など流されているところがある。引き続き、状況を確認してもらう。(ふれあいの家・ゆうゆう・キトさん家・こうらく・あけぼの・つなぎ 大丈夫 それ以外、すでに不通だった)

人吉・球磨地方について(6日実際に現地視察し、支援物資届けながら現状を把握する)

グループホーム)

愛生 第2愛生とも、1Fがつかりそうなので、みんなで、上階に避難（もともと第2愛生は4階などで助かっている）。人的な被害はないが、事業所の1F2Fが浸水し、泥だらけに。職員の自宅も被害が多い。愛生は、水も出ないし、電気もまだ不通。

8日泥かきと支援物資持参の予定を立てる。

えがお人吉 今からあさぎりの施設に避難する。今のところ全員無事。人吉市の職員の自宅が被災し、人的に大変になった。

はっぴーらいふ ローズヒル すずらん 建物や人的被害はなく、大丈夫

やすらぎの里にしき スタッフが来れないが大丈夫。同一法人のやすらぎの里さがらの利用者6名が避難中。

花みずき 排水がうまくいかないが大丈夫。

やすらぎの里 相良 6時から相良村総合体育館に避難中だった。腰までの床上浸水。水が引けば大丈夫かと思うが泥がひどい。利用者は12名無事。半分は、自宅の家族のもとに。半分は、午後、やすらぎの里にしきに移動。スタッフがついているが、スタッフの自宅も被害があり、サポートが必要。今後のことを行政と相談したい。

※浸水は泥水が押し寄せており、地域によっては被害が大きく、事業所が被災していなくてもスタッフが被災していることが多い。

小規模多機能ホーム)

なごみの里 今は大丈夫だけど、周りの田んぼが冠水中。

愛生 今上階避難中。天井以上の浸水で大変な状況。個別に支援が必要。8日泥かきの支援予定。

菜の花 人吉スポーツパレスに避難中。事業所は浸水し、泥水に使ったまま。7日業者が入る予定。支援物資は6日に届けた。それ以外の物資は東北の事業所支援とマッチング済み。在宅の利用者が2名行方不明。

アットホームどんぐり 2Fに避難 1F浸水している。裏は崖。消防や自衛隊待ち。被害が大きかった千寿園の系列事業所で、詳しい状況はまだわからない。道路もつながらず、地域が孤立している状況。途中から連絡がつかない状況に。

五木の友 スタッフが来れないが大丈夫。黎明館 念のため、通い中止、被害はない。

6日の現地視察と支援では、やすらぎの里さがら、菜の花、愛生に先遣隊として支援訪問。主な物資は、やすらぎの里相良（地域の人にも分けるそうです）と菜の花に持参。水やバナナなど。愛生には、立ち寄ったところ、人吉市内の被害状況もひどく、法人全体が被災。飲料水のお見舞い程度だったので次回支援候補に。この日より電話連絡を取り合う。その他、熊本県内の追加の被災情報があれば知らせてもらうように各世話人に依頼。被災状況を熊本県や県内の事業所へファックスで連絡し支援を求めた。

各種団体・連携先・FB で支援を呼びかけた。また当日深夜まで熊本県と連携し、各個人携帯を活用し、各事業所の無事を確認した。アットホームどんぐりだけが確認できず、翌日の報道で、被害が大きかったことを確認した。（特養の死者 14 名この中の被害に含まれる可能性もあり）こちらの支援は特養もあるため、特養関係の鐘ヶ丘ホームの永田さんやグリーンヒルの吉本さんと相談し、お願いした。

すぐに支援金・義援金・支援物資を集めた。SNS や各種メールで他県や他団体にも要請。できれば、被災地に直接送ろうとしたが、集配所や避難所受付が機能せず、やむなく上益城郡のグループホームせせらぎを一旦中継地点として物資を運ぶ段取りとした。

グループホームせせらぎ

（物資が届かない時など：〒861-3243 熊本県上益城郡甲佐町白旗 986）

電話・ファクス：096-234-5511 担当：高橋・相良

緊急支援物資のお願い内容（その際お願いしたもの）

デッキブラシ・タオル・スポンジ・洗剤類・飲み物・高齢者向き衣類（新品のみ）・介護職向けシャツ・下着・生理用品・オムツ・パット・痛みが少ない果物・食材・簡易ベッド・扇風機・ウェットティッシュ・トイレットパーパー・マスク・消毒薬・手袋・口腔ケア用品・入浴用品・紙コップ・紙皿・箸など、少しでも送れるものを一週間以内に着くように。

支援先：（集配されなかったためにほとんどの物資がせせらぎに来たため、各事業所避難先にお送りしています）

1）相良村総合体育館内

グループホームやすらぎの里 相良 （守口さん）へ送ってください。

宛先は、熊本県球磨郡相良村大字深水 2500-1

体育館 電話：0966-35-0090

2）小規模多機能ホームなのはな 永尾さん

人吉スポーツパレス内

〒868-0015 熊本県人吉市下城本町 1566-1

TEL.0966-22-1688

3）第2グループホーム愛生（小規模の物資もこちらに）

〒868-0037

熊本県人吉市南泉田町 115 医療法人愛生会

愛生会長寿センター 3F

電話 0966(32)9214

4）ふくしステーション千の穂 内

グループホームまどか 宛

〒866-0072 熊本県八代市高下西町 1760

電話: 0965-35-1311

5) グループホームひかり 宛

〒866-0061 熊本県八代市渡町 1717 番地

TEL 0965-62-8468

まどかは法人内避難、ひかりは床下浸水だった。共に後で物資の不足あり、支援要請があったために八代ブロックに支援を依頼。八代ブロックの田中さん達が物資を提供。

まどかには、八代ブロックから泥かきの支援もあった。

その後、半月ほど、人吉球磨地区への物資の集配は行われず、多くがせせらぎへ配送されることになり、関係の多くの方々と連絡を取り合った。

グループホームやすらぎの里 相良 6日の状況



6日、急ぎ支援物資を持参した時の菜の花の様子（人吉スポーツパレス）

この際、新潟桜井の里と岩手の典人会と連携して、人吉地区の支援をマッチングした。



令和２年７月７日 １５時時点（ブロック世話人より芦北地区の被害状況の連絡）の情報
芦北地区

千花 母体の医療機関に避難。棟まで浸水し掃除中。

むつみ荘 ２階に避難。

慈愛 不通。避難先も不明。母体にもつながらない。

芦北地区の世話人が直接確認にいく方向で調整。

紫おん 水がない。

芦北には、１０日に入る予定とした。９日に支援物資が来る予定のため。

また、FBに掲載したことで、近隣の支援者が飲料水を提供。

７月９日 グループホーム愛生への清掃活動と

グループホームやすらぎの里さがらにて、泥かきなどの清掃作業

せせらぎを９時３０分出発、現地に１０時５０分着、１５時３０分まで

清掃道具や水、消毒薬、カップラーメン、衣類などの支援物資持参した。



熊本県認知症介護指導者や FB にて支援者呼びかけたところ、御船町の町会議員 2 名、認知症介護指導者 3 名、地域密着型サービス連絡会 2 名（1 名は指導者の事業所より）、自然観察くまもと 1 名、せせらぎより 3 名参加、FB・知人より 3 名参加





認知症介護指導者は高橋・松永よしこさん・長さん

9日、同日せせらぎでは、滞っていた支援物資が一気に到着。仕分け作業を行う。夕方、せせらぎ着後、大量の物資を仕分けて、長さんの車に乗せる。11日に人吉に配送予定。夜間、長崎より、認知症介護指導者2名（森さん・白仁田さん）が到着しており、物資を引き受ける。

写真は、明日の介護を考える会より、大量に物資支援をいただく。



長崎の認知症介護指導者森さん、白仁田さんが地元の議員や知人などにも呼びかけ、支援物資を購入し持参



10日7時より岩手の支援物資を菜の花に届けた。菜の花は清掃し改修工事中。現在、利用者は分散避難に。

各地から SNS やメールの呼びかけに呼応し大量の物資が搬入された。

室内に収まらない物資は、しらぬい荘やグリーンヒルみふねにも呼びかけ一部置かせてもらった。（10日は、埼玉県支部より150箱の水などの支援があった）

せせらぎでは主に地域密着型サービスやその避難先に対する支援を行うことで、他団体と調整を行った。熊本県 DCAT は会長の川原さんが要請を行う予定となった。（支援金・会費より10万支出、あとは避難所支援なので県と相談しながら）主に県内の避難所支援を行うとのこと。地域密着型サービス事業所の支援は事務局が呼びかけて行うことになった。



さらに全国認知症介護指導者ネットワークからも一部支援費の入金あり。

熊本県認知症介護指導者の前川さんは、全国からの支援金をいただいたため、大牟田支援にも出向いてもらったが、主な事業所の被害は少なかった様子。

元田さん、長さん、松永（よ）さん、人吉球磨地区を再度訪問し、泥かき支援。

芦北地区の支援物資に関しては、主に衛生用品や飲料水など 10 日に持参。必要なそれ以外の必要物品を確認してくる。

それまでの物資支援・連携先は以下の通り

日本認知症グループホーム協会災害支援チーム

岩手・新潟・佐賀・埼玉などの支部または、法人からのご支援

熊本県地域密着型サービス連絡会 支援金・人的支援

全国認知症介護指導者ネットワーク 支援金

認知症ケア学会 支援物資（長田理事）

日本ホスピス・在宅ケア研究会 各理事からの支援物資

認知症介護指導者 各個人の支援物資（生活用品や車など）

明日の介護を考える会 支援物資

危機に打ち勝つイベント会議 チーム IDO 支援物資

福岡福祉向上委員会 電化製品など

高橋の FB による知人・友人

希望者には写真がございますのでご覧いただけます。

もしくは高橋恵子の FB で支援物資や活動をご紹介します。

現在までの多くの皆様のご支援とご理解に感謝申し上げます。

その後の活動については、一般のボランティアとも交流しながらサポートし合うことに。

7 月 11 日 八代・坂本地区支援のつるさんと連携、FB 友達によるタオルや衛生用品など、被災地に持参してもらう。（地域の高齢者向き）

西田さん、支援物資の片付け作業ボランティアに来てもらう。

7 月 12 日

メロンの元田さんと高橋で、愛生に支援物資を持参、やすらぎの里さがらにて泥かきボランティアを行う。

夕方、臨床宗教師糸山さんと連携、お寺や保育園の支援に古タオル・衣類（子供用）など願います。（地域の高齢者向き）事業所支援用と支援物資の仕分けを行う。

7 月 13 日

人吉市の現地の分散避難を支援する方と連携、子供のマスクが足りないと聞いたために、子供用のマスクの支援や不要なマスクの支援を呼びかけて大量にいただき、各地の小学校

へ届ける支援者にお渡しすることになった。関係者が取りにきてくれた。グリーンヒルとも連携、子供のおもちゃも届けた。

7月14日

八代地区、特に球磨川流域の坂本地区の被害は甚大。ひかりさんとまどかさんの支援物資を持参。災害に遭われたスタッフの皆さんにも使っていただくようお願いする。



7月14日

森枝さんが、NPO 法人ピュアの藤田さんの支援金届けて、帰りには、子供食堂の会議があると聞いたので、水とアルファ米を持参してもらう。（人吉球磨地区では、ほとんどの被災した方は、各事業所や避難先でご飯を食べているが、一般の子供達の方が、保育園などでお弁当が始まるのにご飯を炊けず困っていたため）

7月16日

泥かき3回目。今日は、佐賀からグループホームの仲間が駆けつけてくれた。物資を積み込んだら、愛生に物資を下ろすと、やすらぎの里さがらに向かう。人手があることはありがたいが全部は終わらないので要領良く、自己紹介もないまま、活動に。現状を見て、息を飲む佐賀の皆さん。熊本のグループホームの仲間（山鹿ブロックより参加）は先に片付けを始めていた。現地の皆さんは、4人、もう慣れた様子だが、表情に疲労がにじむ。疲れが肉体と精神を蝕んでくる頃。発災から12日。室内の泥を出した後は、まだそのまま。土嚢に詰めて、軽トラで運ぶを何度も繰り返す。水を含んだ粘度状の泥は重く、むせる様な匂いがする。室内は、一旦泥かきしたが、奥の方から泥がまた出てくる。拭いても拭いても泥がにじむ。

芦北のグループホームの記事より引用

熊本県南部を襲った4日未明の豪雨では、災害弱者であるお年寄りが暮らす施設も危険にさらされた。芦北町のグループホーム「千花」では、平屋が約1メートル10センチ浸水。1人で当直中だった職員中浦まゆみさん（59）は水位が増していく恐怖の中、認知症の70～90代の入所者9人をテーブルの上に乗せるなど冷静に対応し、全員が無事に救助された。

雨が降り続いていた4日午前2時ごろ、中浦さんは電話がつながらなくなったことで異変に気付いた。「何かあれば1人で乗り切らないといけない」と決意した。

雨脚は強まるばかり。午前5時前、居室で寝ていた入所者を起こし、歩ける人や車椅子利用者の計7人をまず施設中央の大部屋に集めた。「1カ所で見守った方が安全と考えた」という判断だった。その直後、玄関から泥水が浸入し始め、みるみる膝の高さに上昇。二つのテーブルに座ってもらった。

水の勢いで部屋のドアが外れ、たんすも傾いた。居室に残っていた寝たきりの女性ら2人も抱えて大部屋に連れてきた。

ただ、寝たきりの女性がテーブルに上げられるスペースは既になかった。中浦さんは機転を利かせ、外れたドアを壁の手すりとソファの上に乗せて即席のベッドにして寝かせた。

車椅子の男性はテーブルに乗せられず、胸付近まで水に漬かった。着衣がぬれ、体を震わせる人もおり、低体温症が心配だった。中浦さんは、夜食用のパンや菓子を食べさせて体温維持に努め、背中をさすりながら「もうちょっとだから頑張ってここを出よう」と励ました。

「これ以上、水位が上がったらどうしよう」。平屋で逃げ場はなかった。重度の認知症の人がテーブルから降りようとするのをとどめたり、眠ろうとする人を起こしたり、気の抜けない時間が続いた。

水が引き始めた午前10時ごろ、施設の女性職員とその父親が駆け付けた。自衛隊が救助に来たのは午後2時だった。

9人は無事に避難所に移動し、翌日から系列病院に身を寄せている。中浦さんは「とにかく必死だった。入所者の家族は心配していただろうし、皆さんの命が助かって本当に良かった」と振り返る。



町は3日午後6時に大雨に備えて避難所を開設。雨が本格的に強まったのは4日午前0時を過ぎてからで、町が高齢者へ避難を呼び掛けたのは午前1時13分だった。中浦さんは「あそこまでの豪雨になるとは想像もできなかった。雨が本格的に降り始めた後では高齢者を移動させるのは難しい。今考えると、その前に避難する必要があったと思う」と話した。（西日本新聞 村田直隆）



7月19日

人吉・球磨の現状、被災された方々の声を分散避難した皆さんから聞き取ってくださる方のお話をお聞きしました！

- ・被災したし、動物と避難しているが避難所に一緒に居られず、車中泊で一緒に過ごされている。
- ・人吉市外の所では保健所の方が避難所に回って来られ、被災されている方や動物の状態を確認され、避難所の一角にゲージ等を準備されて世話をされている。
- ・被災した方で避難所に避難している方の動物（犬、猫）を預かり世話をしている。

・洗濯が出来ず、ランドリーに洗濯、乾燥をしている間にお風呂に入りに行ったら洗濯物が全部無くなっていた。（高齢の夫婦）

その為、不信感が強くなられ、避難所の段ボールベッドで仕切っている所に干しておられる。

・避難所に少しの時間戻った際に子供のサンダルをその日に支援で頂いたものが、取られた。（避難時に大人に抱きかかえられて逃げ、履物がない子供たちが多かった）

・日中は自宅の片付けをしないといけない、また移動手段がなく支援物資を取りに行く事が出来ない。

・日中支援物資を取りに行けない、移動手段等がない方の為に近所の方や友人の方が支援

物資を取りに行き、届けている。

- ・避難所のご飯（夕方）は5時位までに配られているようで、まだ日が暮れるのが遅く、7時位まで自宅の片付けをして避難所にご飯を取りに行くと家族分のご飯がなかった。（車中泊している方や自宅の2階等に避難している方が取りに來たりしておられる様子）

- ・全国からの支援が届き、行政ではマスク等の保管場所がないとのことで支援を一時的に止められたが、必要としている支援者や毎日生徒が通う学校には届かずマスク等が不足しており各学校の校長先生がSNS等で呼び掛けされている。

- ・ボランティアの要請をお願いしてもボランティアが來なかった。（ボランティアの受付をしているスタッフが不足しており、ボランティアに來られた方の振り分けが出來ていない）

- ・各企業や一般の方より支援物資（新品の衣類等）が届いている。

- ・温泉施設等が被災者に無償でお風呂の支援をされておられる。

- ・被害が少なかった保育園は次の日から保育を再開され、被災されている子供さんたちを預かられている。

- ・1週間した頃より他の保育園も保育を再開されたが、昼食の準備をしなければならない（ご飯）が米もない、水もない、炊飯器もない、避難所の小学校の体育館にいるのにどうすればいいの？

- ・アルファ米等の支援物資等が届き、保育園の昼食にオニギリ持たせることが出來た。（五目や赤飯など）

- ・被害がひどかった地域に保育園があり、開所できる状態ではない為、別の保育園の学童クラブの部屋を間借りされ保育をされている。しかし、弁当、水筒の持参での保育となり被災した家族はすべて流されており、準備が出來ないと悩まれておられる。

- ・避難所に避難していない人（避難したくても出來ない老夫婦や介護が必要とする家族がおられる方など）が情報も入って來なかった為、支援物資を受け取る手段がなかった。

- ・今は認定避難所外（保育園や学校、個人スペースがある所など）にも支援物資が置いてあり、車を持っている地域の方々が動けない人の為に必要な物資を受け取り、届ける姿も見られるようになった。

- ・熊本地震時のように炊きだしがなく、被災者はお弁当での食事が多く、温かいご飯、味噌汁、お茶が飲みたい、食べたいと話される。

- ・被害がある地域には簡易のトイレがあるが、設置数も少なく、その場所自体も遠く不便である。

- ・今回県外から來られた方のコロナ発症で、ボランティアを受付するボランティアを募集されるも希望する人が少なく対応に困られている。

など、話が聞かれたためにFBの方々に一般の支援物資もお願いした。

7月22日

元気ドリンク持参！地域の高齢者のケアもあり、折り畳みベッドも使うというので支援金で購入。芦北のグループホーム支援は、長崎のグループホーム協議会、新潟の佐々木さんや青木さんの法人・桜井の里、岩手の内出先生の法人、典人会さんに、支援のお願いをした。足りない分は支援金で、何とか回す。

芦北に義援金と支援物資お届けに。三事業所が被災した法人で、今は、芦北の篠原医院に避難中。よく見るとこちらにも被災されており、明るく頑張っているが、皆さまのご支援が必要と感じた。滋養のつくものや飲み物の差し入れも、必要。地域の方にも配って下さるそう。

7月23日

夕方、チャリティーズームイベント IDO 主催

本日、熊本豪雨災害支援・チャリティーズームイベント。今までの経過と皆様の支援がどのように生かされたかをご説明し、さらに支援を求めた。

支援物資についても画期的で、アマゾンを活用したシステムで、支援物資を購入し、送るシステムを考案してくれた。折りたたみベッドや飲料水、長靴、衣類、髭剃り、ポットなど、アマゾンより直接せせらぎに届いた。感謝を皆さんに伝えた。

7月25日

昨日も冷蔵庫や物資を積んで、相良村や人吉を巡回、まだ支援が必要な状況。本日は、ロータリーの支援物資を軽トラできた宮崎さん、牛深から森田さんが果物などを持って、支援に参加。泥かきもしてくれて、夜、牛深まで無事もどられた。夕方、自然観察会の大住さんに頼まれていた地域の方への支援金をお渡しし、職員の半数が被災したローズヒルにお見舞いに行って話を聞いてきた。ローズヒルでは、職員が泥かきなどを行うために以下のものが必要と話された。長靴 26・24.5、レトルト食品・野菜ジュース・ドリンク・キッチン用品・ポット・Tシャツ上下・スリッポン・果物・菓子など、すぐにFBなどで支援者にお知らせした。

7月27日

「熊本県内の介護職で被災地のグループホームの支援に行けるかた、長期がありがたいです。宿泊先あります。行ける方はご連絡をお待ちしています。」と呼びかけたが、新型コロナウイルスの感染拡大で多くの事業所が、被災地には行けず。支援継続の難しさを感じた。

7月30日

本日は、大阪市立大の横山先生と休みだった大石と一緒に人吉・球磨地区を巡った。グループホームハッピーハウスの前田さんの実家で合流し、自宅も実家もお掃除中で、支援物

資をグッドタイミングで、おかせていただき、ローズヒルに、皆様の愛情こもった物資をお持ちして、最後に球磨村に向かった。

FB お友達の支援は、団体の関係がない球磨村の支援に使っていただけるようにハッピーサプライズ：ラフティングのたくましい皆さんにお届けした。球磨村ではまだ物資が不不足。被害が甚大な地域。どうか皆様ご支援のほどよろしくお願いします。

さらに、渡地区の千寿園へお花を備えてきた。ひっそりと、施設の方が、今もお掃除をしていらっしやう。必死に広い空間をどんな気持ちで泥かきされていたのか？施設にいらした70名の中には小規模の利用者も含まれていたよう。以前、行政から注意されていた土砂災害の方が気になって、高台にある小規模から施設に避難していたと話してくれた。調査に入った大学の先生から1000年に一度といわれるほど、異常な水位の津波のような濁流の跡。今は、ほんの数人で、静かに片付けていらっしやう。どんなに苦しいか。渡小学校も泥はかいてあったが異臭が漂い、子供たちの学習道具だけが残されていた。手を合わせても、道々、あまりの光景に心は沈むばかりだった。

このあと、被害のあった道を下流に向かい、一勝地小学校にグリーンヒルからいただいた大量のガーゼマスクをお届けした。奇しくもその日は、新しいランドセルが到着する日で、子供たちの生き生きとした目が眩しかった。

被害の大きかった渡地区と一勝地の子供達が仮設で共に学ぶ。

7月31日

芦北巡りで、人吉へ。うちに来た支援物資もあと少し。

今はご用聞きしながら、支援金を使って、皆さんに物資も購入したりしていた。芦北の3事業所には、岩手、新潟、長崎の法人や団体が支援を約束してくださった。本当にありがたい。

ゆっくり現地のみなさんとお話する間も無く、明日利用者を迎えたいと話すやすらぎの里さがらへ。行ってみると、まさまだ片付けの必要が。大工さんのお手伝いみたいに廃棄物を片付けて、残った外壁の泥を落として、ドアのカビ止めを施して、応急処置。布団を干して、玄関を片付けて、お花を飾って、CDをかけてみて、茶碗を洗って、流しを洗って…。私たちだけじゃとてもとても。今日も佐賀のグループホームの仲間たちが、支援に来てくださった。「コロナ関係があり、止められた事業所もあり、いつもの半分のメンバーですが。」とあやまってくれる佐賀の藤田さん。

午後は、人手の足りないローズヒルの様子見にボランティアに行ってみた。スタッフの支援はまだまだ足りていない状況。

その日、宅老所・グループホーム全国ネットワークの皆様から義援金に関するご連絡があった。ありがたい。皆様のご支援は、熊本の皆さんに紹介し、被災した事業所やスタッフの義援金や支援に活用させていただくと話す。

8月1日・2日・3日

週末の休みを利用して、土曜日は、相良村のやすらぎの里さがらの利用者受け入れの様子を見に行った。まだ、4分の1の再開で、台所仕事もままならず。介護スタッフも被災した現場の物資関係に慣れるのはこれからのようだった。物資ももう一つのホームに山積みのもままで、これ以上待てない利用者のために再開された。これから先の動向も見していきたい。しかし、生きていてよかったねと喜び合う利用者さんの笑顔が印象でよかった。

日曜日は、人吉市のローズヒル、こちらは一見、ケアスタッフも、利用者も建物も普通に見える。食事内容も十分。しかし、ここでは、スタッフ5名の自宅が被災、職場に来るのもやっと。避難先でゆっくり眠ることもできず、メンタル面や勤務表の管理、業務改善などが必要。今必死に頑張っているところ、介入しないとスタッフはもたない。

被災したスタッフに欲しいものを聞くと「家です。家！みんなそうです。」それは、怒りにも似た感情。家をゆっくり探して回りたい。年老いた家族の面倒もある。家族はバラバラに過ごすことに。物資をもらっても下す場所がない。車に詰んだまま。どうしたらいいのか？将来のことまで頭に回らない。

話を聞くだけで、とんでもない大変さを感じられた。（月曜日、人吉市行政、法人幹部にも相談した）

8月6日

昨日は芦北に物資を持参した。岩手や新潟から来た台所用品や電化製品各種も揃った。むつみ荘では、二階で、ホームのみなさんが暮らして、一階はまだ回収出来ておらず、若干異臭がした。「ここまで水が来てとか、私あの日ここにいて怖かった。」と話すスタッフの皆さん、思いが溢れてくる。聞き書きの必要性も感じつつ、今後の支援のあり方も考える必要がある。

8月9日

井戸さん達が下記のプロジェクト立ち上げてくれた！

株式会社 IDO 災害支援プロジェクト 『ココロ・ゲンキプロジェクト』について

令和2年7月豪雨により災害に遭われた皆さまへ 2020年8月

令和2年7月豪雨により災害に遭われた皆さま、ご家族の皆様につきましては、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

弊社では2012年より、介護業界をスタートとして様々な業界における事業所・法人のメンタルヘルスサポートなどを行っております。この度、豪雨災害に遭われた中で、介護業界をはじめとした最前線で働かれている方々への力に少しでもなりたいと考え、期間限定とはなりますが IDO メンタルヘルス相談センターの『令和2年7月豪雨災害「ココロ・

ゲン キプロジェクト」臨時メンタルヘルス相談窓口』を無料でご利用いただけるように致しました。皆様の現在の状況における不安や悩みを聞かせていただくことで、メンタルヘルスのサポートとして復興支援の一助になれば幸いと存じます。

株式会社 IDO メンタルヘルス相談センター カウンセラー一同

8月10日

1ヶ月経っても、まだまだドロドロ。今日は個人的に支援に。こんな時に持参するジュースなどは、FB友達の永井先生から頂いた飲料水や井戸さんが呼びかけてくれた支援金など、しがらみのないもの。みんなで泊まった人吉の旅館や球磨村、一般の民家の支援に使った。平野さんからいただいた饅頭も持参した。

行きがけには、ローズヒルに寄って、扇風機や職員の休憩場所に使える椅子など持参しました。

今日の泥かき支援は、個人的な知り合いとご近所の皆様、先日草刈りの時に支援のこと話したら一緒に行きたいと言う素晴らしい3名と参加できた。

8月11日

一旦義援金・支援金締めて、中間報告作成する。本日も日本ホスピス・在宅ケア研究会のメンバーより、義援金振り込みあり。ありがたい。

近況) 菜の花は、床の張り替えすみ再開しました。

やすらぎの里さがらは、8月から一部で再開します。

坂本の2ホームは、7月後半から再開しています。

愛生も被災しながら上階避難で続けてきましたが、一二階も正常に戻りつつあります。

芦北の3事業所はこれから床の張り替えです。

被災した職員もたくさんいます。

事後報告となりますが、日本認知症グループホーム協会より30万の支援金・全国宅老所・グループホームネットワークより70万の義援金をいただきました。GH協の支援金は関東ブロックの皆様が集めてくださったもので、主にグループホームの支援に使わせていただきました。ご支援ありがとうございます。

皆様の支援金は物資に変えて現地に持参しています。支援物資の配送、泥かきボランティアなどの支援に関しては、被災地に車両を出した方などに、交通費として上限5千円を支給しています。ご理解ください。

一旦義援金としては皆様よりいただいた資金から、人的被害や建物などの被害があった会員事業所へお見舞金として10万ずつ支給しています。(全部で10事業所)

詳細は別紙でご報告いたします。今度の残金や追加の支援金・義援金については、最終報告書をお出しします。現在も長期的な支援を行なっておりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いします。今回、ネットワークの資金もあるため、被災されたスタッフへの支援も可能な限り検討します。皆様のアンケートでは出しても良い。希望があればが多かったので、希望者に支給します。もともと地域密着型サービス連絡会の支援金は、16万残金があり助かりました。今回、4万を残すことで、20万の支援金を手元に残すことになるかと思っておりますのでご理解ください。また支援金があっても先遣隊の存在も大切です。共に災害対策を学びたい方は先遣隊として登録してください。

支援物資のマッチングでは、全国各地のグループホームや小規模多機能の団体・介護ネットワークや地域包括の団体様からもご支援いただいています。特に早期から新潟の桜井の里や岩手の典人会様より、直接事業所とマッチングした上で、数十万単位のご負担いただき、ご支援いただいています。

鹿児島や福岡、長崎の事業者団体の皆様も現在も支援を続けていただいています。また、記載されたこと以外にも八代地区・芦北水俣地区や菊池・山鹿地区のブロックの会員様や天草ブロックからもご支援いただいておりますので感謝いたします。

追伸

山鹿の老健で発生したクラスター感染によって、感染のなかった併設のグループホームが、一般病院で過ごし、そのグループホームに感染者が入り、DMATの方々が支援しながら治療を待っています。ただいま、天草、上益城、山鹿地区に共同購入の防護具を置いております。もし事業所で発生の可能性があるときはお知らせください。

また、一般病院でケアを続けているグループホームのスタッフには、外出しにくい分、本来は病院の食事にはないおやつセットなどを差し入れています。皆様、心のこもったご支援よろしくお願いします。

皆様、どうか今後ともよろしくお願いします。皆様の心温まる支援をお待ちしています。
※尚、熊本県の認知症介護指導者は、長期支援のためのカフェ活動について話し合い中。







熊本県地域密着型サービス連絡会 事務局

〒861-3243 熊本県上益城郡甲佐町白旗 986 グループホームせせらぎ

高橋恵子 電話・FAX：096-234-5511